

令和元年度 第2回 市川市健康都市推進協議会会議録

1. 開催日時： 令和2年2月5日（水） 14時00分～15時30分

2. 会場： 市川市役所仮本庁舎4階 第2委員会室

3. 出席者（敬称略）

【座長】

和洋女子大学 教授 藤澤 由美子

【委員】

市川市歯科医師会	会長	石井 広志
市川市薬剤師会	常務理事	寺澤 千恵子
千葉県市川健康福祉センター	センター長	坂本 泰啓
市川市健康都市推進委員会	会長	栗岡 喬
市川市教育委員会	養護教諭	山本 広美
いちかわライフネットワーククラブ	理事長	青山 真二
市川市食生活改善推進委員会	会長	後藤 真弓
市川市民生委員児童委員協議会	会計	後藤 久子
市川市体育協会	会長	清水 輝和
市川市自治会連合協議会	会長	滝沢 晶次
市川市スポーツ推進委員連絡協議会	会長	高橋 勲

【市川市】

鹿倉保健部長 毛利保健医療課健康都市担当室長、他担当職員4名

会議内容

【健康都市担当室長】

本日はお忙しいところ、ご出席いただきましてありがとうございます。定刻となりましたので、令和元年度第2回健康都市推進協議会を始めさせていただきます。

本日の司会をいたします、健康都市担当室長の毛利と申します。よろしく願いいたします。なお、市川市医師会 岩澤委員、市川市保健推進協議会 加藤委員は、所用のため、欠席のご連絡をいただいております。それでは会議に先立ちまして、配布資料の確認をさせていただきます。

「市川市健康増進計画 健康いちかわ 21(第2次)健康に関するアンケート(3種類)」、「第14回下総・江戸川ツーデーマーチチラシ」、「正しく知ろう 受動喫煙の害と対策(小冊子)」、「千葉県冬の受動喫煙防止キャンペーン啓発品(カイロ)」、「健康都市いちかわ 健康講話&ダンスコンテストチラシ」、資料の不足等、ございませんでしょうか。それでは、鹿倉保健部長より挨拶を申し上げます。

【保健部長】

みなさんこんにちは。保健部の鹿倉です。

本日は、お忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。

また、日頃から保健行政にご理解ご協力賜り、あわせてお礼申し上げます。保健行政と申しますと、今現在感染が拡大しております新型コロナウイルスの対応につきまして、本市では、新型コロナウイルスが指定感染症に閣議決定されたことを受けまして、市長を本部長とする新型コロナウイルス対策本部を設置しております。本日もご出席いただいております坂本所長の市川保健所とも連携を図りながら正確な情報の収集、そして市の公式ウェブサイトやSNSなどを活用して迅速な情報提供に現在努めております。今後もさらに感染が拡大されるという予測もされているため、保健所としっかり連携をとって対応してまいりたいと考えております。

さて本日の健康都市推進協議会ではありますが、次第の中にもありますとおり、いくつかの報告事項がございます。その中で今年度新しい取り組みといたしまして、市民が考える健康都市像がどのようなものであるのか、調査分析して、この分析の結果市民が考えるふさわしい事業を選定して、市民と一体となって健康都市を推進する取り組みを始めたところであります。委員のみなさまには、調査の際ご協力いただきましてありがとうございました。ここで得られた情報については後程担当より報告をさせていただきます。来年度はこの民意を反映させた健康都市推進事業も展開してまいりますのでよろしくお願いいたします。このように市民の意見を直接事業に取り入れ、市民と一体となって推進してまいりたいと考えておりますので、皆様方におかれましては引き続きご協力の程よろしくお願いいたします。また今日は意見交換の場も設けておりますので、それぞれのお立場から忌憚のないご意見をいただきまして今後の参考とさせていただきますと思いますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【健康都市担当室長】

それでは、次第に従いまして、進めさせていただきます。市川市健康都市推進協議会の運営に関する要綱、第5条から、協議会の会議は、協議会の出席者のうちから座長を選出し、進行するものとするかとされています。座長は和洋女子大学藤澤委員にお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

それでは、藤澤委員よろしくお願ひいたします。

【藤澤座長】

改めましてみなさまこんにちは。進行を務めさせていただきます。年度末のお忙しいところお集りいただきましてありがとうございます。健康都市の推進について、いろいろとご意見伺いたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。

最初に事務局から会議録の公開について説明をお願ひいたします。

【健康都市担当室長】

会議録は、ホームページで公開しています。

この会議録は、一言一句正確なものでなく意見を集約したものでお名前も入れさせていただきます。公開に際しましては、各委員の発言部分は各委員に全体部分は座長に確認の上公開させていただきます。また、会議の開催状況をホームページや市の刊行物等で公開するため写真を撮影させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【藤澤座長】

よろしいでしょうか。

(異議なし)

それではご異議がないようですので、会議録をホームページで公開して実名入りのものとさせていただきます。また、各種紹介用に写真を撮影することについても許可させていただきます。

それでは、議事にうつらせていただきます。

はじめに議事(1)「受動喫煙防止対策の報告」ですが事務局より説明をお願ひいたします。

【事務局】

本市における受動喫煙防止対策についてご報告いたします。

皆様すでにご存じの通り、「望まない受動喫煙」の防止を目的とした改正健康増進法が今年の4月1日から全面施行となり、事業所や飲食店など「多数の人が利用する施設」においては、【原則屋内禁煙】が義務付けられます。

本市では、受動喫煙による健康被害を深刻なものと考え、令和2年4月1日から、建物のある市公共施設においては、屋内だけでなく屋外も禁煙とする「敷地内禁煙」を実施することと致しました。

現在、喫煙所を有する市公共施設では、順次喫煙所の撤去をしているところです。市民の皆さまに対しましては広報いちかわ等で周知し、ご理解とご協力を求めてまいります。

今後も、「望まない受動喫煙」をなくすよう、受動喫煙に関する知識の普及や受動喫煙防止に関する意識の啓発に努めてまいります。

以上で報告を終わります。

【藤澤座長】

ありがとうございました。

受動喫煙防止対策の報告でしたけれども、何かご質問のある方はいらっしゃいますか。今日は小冊子もありますけれどもいかがでしょうか。

原則屋内禁煙となっていますが、この中にはたばこを吸われる方はおられるのでしょうか。困る方もいるかもしれませんが、受動喫煙ですので吸わない方たちが守られる権利があるということで推進していただけたらと思います。（質問などは）よろしいでしょうか。

（質問なし）

それでは議事（2）「第15回健康都市連合日本支部大会報告」をお願いいたします。

【毛利健康都市担当室長】

令和元年7月30日、31日に香川県高松市、サンポートホール高松で開催された健康都市連合日本支部の大会に参加してきましたので、ご報告いたします。

健康都市連合のことを簡単に説明します。市川市は健康都市の取り組みを行う自治体、民間組織、学術団体などで構成される国際的なネットワーク、健康都市連合に加入しており、都市に生活する人々の健康と生活の質の向上を目指し、各都市の経験を生かした情報を共有しています。令和元年6月現在で9カ国190都市50団体が加盟しています。国内では日本支部があり各都市とともに健康都市を目指しています。日本支部の加盟市は、千葉県内では市川市のほか松戸市、柏市、鎌ヶ谷市、流山市が加盟しており全国42都市3団体が加盟しています。

大会には全国より加盟団体関係者の方々約 1300 人が参加し、総会・講演・発表が行われました。市長・市議会議員・健康都市推進員とともに職員 2 名が参加し、他市の健康都市の取り組みを学ぶとともに担当者の方々との交流を行ってきました。

高松市の取り組みについて簡単にご紹介します。高松市は人口 41 万 7 千人。波静かな瀬戸内海に面し海に開かれた都市です。高松市はモデル事業として「まるごと福祉相談員」という方々を地域に配置しました。地域に関わりながら住民からの相談を「まるごと」受け、様々な支援機関が連携して住民を支援していく仕組みを作っています。その中で困りごと・心配ごとを自分たちの住んでいる地域で話し合う会議も設けています。また、ウェアラブル端末での高齢者の見守り、GPS 付き貸自転車による観光ルートの開発、小型カメラによる河川潮位の監視など技術革新にも力を入れています。

開会式に引き続き内閣官房参与岡本氏の基調講演がありました。岩手県宮古市、福島県南相馬市の例を取り「住民の暮らしを支えるまちの機能―大震災復興で考えたこと」というテーマでの講演がありました。東日本大震災直後は病院が流される、カルテがなくなる、自分の薬がわからない、風呂に入れない、トイレが和式なのでトイレに行きたくないため、水を飲まなくなることによるエコノミーシンドロームの発生があったそうです。宮古市では高台にまちを移転し 15 万件の再建が着実に進捗、復興の進展に応じて生じる課題にきめ細かく対応するために生活支援員が訪問し、移転先での新たなコミュニティ活動に向けた活動につなげています。

福島県南相馬市では、仮設住居で働く場がない人のために仮設工場を作っています。町の復興における三要素はインフラ（住宅の再建）、産業（なりわいの再生）、そしてコミュニティの再建、復興に関しては人と人とのつながりが何より大切だったというお話がありました。

次に SDGs と元気なまちづくりというテーマでパネルディスカッションが行われました。健康都市の大会に行くと、SDGs という単語がたくさん出てきます。SDGs はご存知の方もいらっしゃると思います。このカラフルなロゴは見たことあるという方もいらっしゃると思います。これが SDGs ですが、2030 年までの間に達成すべき 17 個の目標と 169 個のターゲットで、国際機関や国、自治体、企業、NPO や個人が参加する仕組みづくりを行っています。

総会では環境省の方が「地球循環共生圏」について講演をされ、人類が豊かに生存し続けるための地球環境は限界に達しており、国際社会の強い危機感を背景に 2015 年にこの持続可能な開発目標 SDGs が国連で採択されたこと、脱炭素化が世界的な潮流であることをお話されました。昨年は南米のアマゾンで大規模な火災が発生しました。テレビやネットなどでご覧になった方もいらっしゃると思いますが、あの森林で地球の酸素の 20%を生み出しているそうです。今後の影響が懸念されます。

今は新型コロナウイルスが中国を中心に感染が広がっています。このようにグローバルリスクとなった今日の問題の対処に、地球規模で考え地域レベルで行動することが大切であるというお話がありました。ぜひ皆さんも、この SDGs について興味を持っていただければと思います。

今年の7月は関西空港がある泉佐野市で開催されますが、市長より市川市の取り組みを発表しましょう、というお言葉をいただいております。参加は自由ですので行ってみたいと思われる方は是非ご連絡ください。

以上で報告を終わります。

【藤澤座長】

ありがとうございました。健康都市連合日本支部大会の報告です。ご質問はございますでしょうか。いかがでしょうか毎年日本支部の大会があり、次回は市川市も発表するということですが。

SDGs も色々なところで取り上げられるようになり、私もバッジをつけて今日は来ました。私どもの大学でも講義の中で何ができるか、あるいは専門の講座も開いて周知しているところです。よろしいでしょうか。

(質問なし)

来年度、大会に行ってみみたい方はどうぞお申し出いただければと思います。それでは議事(3)「健康都市 DX 事業の報告」に移りたいと思います。事務局よりお願いいたします。

【事務局】

健康都市 DX 事業についてご報告いたします。

委員の皆様におかれましては、ご承知のことと思いますが、今年度4月より健康都市担当室として組織体制が強化されております。これに伴い、これまで継続的に進めてきた健康都市施策の推進に、新たに本市の掲げるデジタルトランスフォーメーションを掛け合わせ、「健康都市いちかわ」のさらなる発展を目指す、ということを経済都市 DX 事業として取り組んでいるところです。

はじめに、本市の目指すデジタルトランスフォーメーションの取り組みについて簡単にご説明させていただきます。一般的にデジタルトランスフォーメーション、通称 DX とは「近年目覚ましい進歩を遂げる ICT (情報通信技術) を社会に浸透させることで、人々の生活をあらゆる面でより良く変化をさせていく、という概念である」と言われております。

本市においては、全庁的な DX の取り組みから見据える将来都市像として、行政が持つさまざまなデータを可能な限り提供し、民間企業、大学、研究機関など、さまざまな分野の先進的技術と組み合わせることで、都市生活の利便性を高めるとともに、経済を活性化していきたいと考えております。

行政事務においても、人工知能や ICT を積極的に活用して、業務システムの効率化や新しい便利なサービスの提供を進めてまいります。行政のデジタル化を推進することで、行政サービスの付加価値を高めるとともに、先進的技術を活用したまちづくりを推進す

ることにより、日々の生活をより豊かで便利なものとし、本市の魅力と価値の向上につなげていきたいと考えております。

次に、このような DX の動きと、健康都市施策との結びつきについてご説明いたします。冒頭申し上げましたとおり、本市は平成 16 年（2004 年）に「健康都市いちかわ」を宣言して以後、保健・医療の分野に限らず、あらゆる施策に健康の視点を意識したまちづくりを進めてまいりました。

健康都市とは、人の心と体の健康だけでなく、人を取り巻く社会環境、都市基盤等、あらゆる分野、施策を包括する概念であるからこそ、本市らしい「健康都市いちかわ」は行政主導により創られるものではなく、健やかで生き生きと生活する市民の意向に沿うまちづくりが必要であると考えました。

現在、私ども行政では、多様なツールによって市民の皆様のご意見に触れる機会がございます。例えば、e-モニターアンケートに代表されるような電子媒体や、「市民の意見箱」への投書や街頭アンケートなど紙媒体、窓口や電話対応での生のご意見もございます。このような様々な規格で寄せられる声がこれまで技術的な要因からも一つに集約されることはなく、対応も個々で行われておりました。そこで、これを可能とする ICT を活用し、市民の声を 1 つのビッグデータに集約し、分析をすることで、瞬時に「今、市民に最も望まれているまちづくり」を把握することができるようになる、ということです。つまり、DX により市民が望む「健康都市いちかわ」の目指す姿を的確に把握し、これまで続けてきた健康都市施策に加えて更なる発展を目指していく、というものでございます。

ここから、より具体的に今年度健康都市 DX 事業として進めてきた内容をご説明いたします。昨年の 9 月頃から、広く市民を対象に主に広報紙等での周知と、e-モニターアンケート、web アンケート、紙によるアンケート等あらゆる手段により、健康都市の実現へ望む声の収集をしており、現在のところ約 4,500 件の回答をいただいているところです。

主に公民館窓口等の市内 21 箇所で実施した紙アンケートに関しては、人の手書きによる文字を AI-OCR という画像判読する ICT の活用により電子データへ変換したうえで、web や LINE 等 SNS を活用した電子アンケートのデータと結合し、1 つのビッグデータへと集約しております。さらに、これを瞬時に表やグラフに変換し、定量的な分析をかけるとともに、自由記述形式の意見に対しては、テキストマイニングという言語解析システムを導入し、大量の文章体から市民の意向を浮き彫りにする定性的な分析をかけております。

現在、継続して実施している健康都市アンケートの結果、「健康都市いちかわ」の実現に向けて推進するテーマとして「安全・安心に暮らせるまちづくり」への要望が最も高く、さらに詳細分析の結果、「台風に備えた避難場所の整備が必要である」との声が多数を占めることがわかっております。

このアンケート結果を踏まえて、来年度、市民が望む健康都市施策として具体的に「災害に強いまちづくり」を強化していくこととなりました。今後も、あらゆる分野の施策

の中心に健康を据え、人の健康・まちの健康を総合的により良いものとしていくこれまでの施策に加え、DX の取り組みとして市民の意見からつくる健康都市施策を推進し、「健康都市いちかわ」のさらなる発展に繋げてまいります。
事務局からの説明は以上でございます。

【藤澤座長】

ありがとうございました。

今の説明について、ご質問のある方はおられますでしょうか。

4,500 件のアンケート回答ということでしたが、年齢構成やどのくらいの分布なのかは分かりますでしょうか。

【事務局】

年代についてもアンケートの回答項目に設けてあるのですが、まだ詳細な年代や地域性といった分析を深めるところまで至っておりません。申し訳ございません。

【藤澤座長】

ちょうどこのアンケートをとった時期に 10 月の台風があったので、そのような意見も集まったのではないかと思います。また今、どのくらいの頻度で、どのようにデータを集めるのか予定はありますでしょうか。

【事務局】

昨年 9 月からアンケートをスタートして、10 月、11 月、12 月と藤澤座長のおっしゃったように台風の影響が色濃く出ているものと認識しております。

ただ、アンケートを取りきったという状態ではなく、継続して進めていくところであり、先ほども申し上げましたとおり、分析を深めていくところと、どのような要因でそのような結果が出たかということ、しっかりと分析してまちづくりに反映していきたいと考えます。

【藤澤座長】

ありがとうございます。

なにかご意見、ご質問ございますでしょうか。

【石井委員】

今の手書きデータというのが、e-モニターアンケートと同じアンケートが行われているということでしょうか。

【事務局】

設問の形式は同じものになります。

【石井委員】

実際に e-モニターに登録していて、手書きアンケートにも回答するというダブルでの回答になることはありえないのでしょうか。

【事務局】

あり得ると考えます。

【石井委員】

そこはもう、しょうがないと。

【事務局】

はい。

【藤澤座長】

その他いかがでしょうか。ICT の技術を使って、どんどん効果的に集めていただいて良い方策をとっていただければと思います。

よろしいでしょうか。また進展がありましたらご報告があると思いますのでよろしくお願いいたします。

それでは議事(4)「e-モニターアンケート結果報告」に移りたいと思います。事務局お願いします。

【事務局】

それではこれより市川市 e-モニターアンケートの結果報告をさせていただきます。別紙 2 をご覧ください。こちらは単年度の評価指標としている市川市 e-モニター制度を利用した「市民の健康に関するアンケート」の結果になります。本日は結果の一部を抜粋してご報告させていただきます。なお、質問項目については、毎年度の比較ができるように変更していません。

まず、アンケートは令和 2 年 1 月 10 日から 1 月 23 日の 2 週間で市内在住者を対象に実施し、回答者の基礎情報としては回答者 1,132 人となっており、男女比及び年代についてはこれまでと大きく変わりはありませんでした。続いて、2 ページ目、問 3 をご覧ください。自身の健康度に関する設問ですが、「とても良い」、「まあまあ良い」と回答した方をあわせた割合は男性 72.0%、女性 70.7%となっており、どちらも昨年度と比べて増加しています。また、「あまり良くない」、「良くない」と回答をした方をあわせた割合についても、男性 13.0%、女性 14.8%と昨年度に比べて減少しております。続いて、3 ページ目、問 6 をご覧ください。野菜の摂取量に関する設問ですが、男女ともに 1 皿～2 皿と回答された方の割合が多く、厚生労働省などが掲げている 1 日の野菜の摂取量の目標である 350 g を達成している 5 皿以上と回答された方は、男性 1.8%、女性 2.8%

とどちらも低い回答率となっております。続いて、5 ページ目、問 10 をご覧ください。喫煙状況に関する質問ですが、男性の 89.7%、女性の 96.4%が「以前は吸っていた」、「もともと吸っていない」との回答であり、回答者の約 9 割がたばこを吸わないという結果になりました。アンケート結果については以上になります。

なお、来年度につきましては中間評価を実施する年度となり、市民を対象に郵送でのアンケートを実施するため、e-モニター制度を利用したアンケートは実施しない予定となっております。e-モニターアンケート結果報告は以上です。

【藤澤座長】

ありがとうございました。何かご質問等ございますでしょうか。

【山本委員】

真間小学校の山本と申します。アンケートの取り方について質問いたします。10 代、20 代が非常に少なく、一概に何パーセントというのを出す、そこだけみるというのはどうなのかなと思います。年齢別の比率が色々なものですから、10 代 20 代が非常に少ない理由はなぜでしょうか。

もう一度基本的なことで申し訳ありませんが、e-モニターアンケートというものの自体をお聞きしたいのですけれども、これはどのような形でアンケートをとる人を選出したのかということをお聞きしたいです。

【事務局】

市川市 e-モニター制度についてですが、これは市川市で実施している登録制のアンケートシステムになります。市川市のホームページなどで周知をしています。

登録制のアンケートであるため、回答していただく方は市川市 e-モニターに登録している方となります。また、こちらの登録は 40 代、50 代の方が割合として一番多く、10 代 20 代の方の登録が非常に少ない状況となっているため、回答者の数（割合）でも 10 代、20 代が非常に少ないものとなっています。

【坂本委員】

私も基本的な質問ですが、もっているデバイスはスマートフォンなどが必要なのでしょうか。

【事務局】

スマートフォンのほか、ガラパゴス携帯やパソコンなど、Web を利用できる環境であれば e-モニター登録とアンケート回答が可能です。

【坂本委員】

なるほど。では、70 代でもこれだけのものを持っていて、80 代でも男性と女性でこ

れだけデバイス所持率に差がある、ということですね。

【事務局】

所持率もそうですし、登録された方にもよるところがあると思います。インターネットに接続できるものであれば、回答は可能です。

【石井委員】

続けて基本的なところで申し訳ないのですが、今回 1 月の結果で、有効回答者数が 1,132 名と。大元の登録者がどのくらいいるのかということと、できればその段階での基礎情報のバランスについて、先ほど二人の方からご意見が出たように各年代の登録者がどのくらいいるのか、というベースが分かるともう少しいかなと。それに対しての結果がどうなのか見てみたいなと思います。

今、1,132 名ということですがけれども、先ほどの説明でもありました通り、毎年同じ形式でアンケートされているので、昨年が 1,192 名、その前の年、2018 年 1 月が 1,245 名と微弱でどんどん減っています。この辺に対する対策もたてていかないといけないのではないかと考えますがいかがでしょうか。

【事務局】

ご質問に回答いたします。

市川市の e-モニター制度の全体登録者としましては、昨日（2 月 4 日）時点での登録者数になりますが、8,005 人になります。うち、市川市内在住者が 6,484 人です。そのため約 6 人に 1 人の方が回答してくれたという結果になります。また e-モニター制度の登録者の年代については、細かなデータまでが入手できていないため、今後 e-モニター制度の登録状況と照らし合わせて集計できればと考えます。また、平成 28 年度から市川市 e-モニター制度を利用したアンケートを実施しておりますが、回答者数が減少しているというご指摘に関しては、このアンケートの周知が e-モニター制度登録者へのメール配信のみとなっていることから、市の関連組織や市民団体に協力を仰いで、e-モニター制度の登録と、健康増進計画アンケートの周知をしていきたいと検討しております。

【藤澤座長】

いかがでしょうか。限られた集団で毎年同じアンケートをしているので、毎年同じ方が回答していることも考えられますので、変化をみるだけでなく、その集団の特徴をつかみつつ有効に使えるような、先ほどのビッグデータではないですけども、うまく使えるような方法を考えてもよろしいように思います。

他、いかがでしょうか。

【石井委員】

e-モニターついでで、今回市民の健康に関するアンケートの結果を示していただいたわけですが、昨年9月と11月に健康都市の推進に関するアンケートを実施していたと思いますが、そちらのほうの報告は何かないのでしょうか。

【事務局】

先ほどご報告させていただいたDX事業のアンケートを9月と11月に実施させていただいております。今回の健康に関するアンケートとは別に市政に対して市民のみならずはどのような風にお考えですか、というところで、市政に反映させていくために実施させていただいたものです。ご説明が不足しており申し訳ございませんでした。

【清水委員】

それよりも関心がないんじゃないかな。若い人は健康についての関心が。実は私はパソコンではなく、チェックをつけるタイプのアンケートが郵送で送られてきてそれに答えていたら、うちの息子が「お父さんなにやってるの。それ面倒くさいじゃん」という言い方をする感じなので。「なんで（紙アンケートを）やっているの」という感じだったので「必要だから答えているんだよ」と言いましたけど。

【藤澤座長】

おっしゃるようにそのとおりですね。不安に思うとか健康について考えている人たちは敏感に反応するでしょうけど、元気で普通に生活している人たちは、優先の順位があってそこにまでは行きつかないということがあると思います。逆に先ほどのDX事業で色々健康都市いちかわの推進について聞いたということですが、e-モニターの登録制のものがあるのであれば、健康に関するアンケートと同時に質問を流してとるという形もできたのではないのでしょうか。それはしたのですか。DX事業の方で健康都市いちかわの推進に関するアンケートは、e-モニターの方々に同じ質問はしなかったのでしょうか。4,500人くらい取れたというアンケート、台風の災害に対して街づくりをしてほしいという意見を集めた、同じアンケートをe-モニターの方々に流すことはできなかったのでしょうか。

【事務局】

9月11月の2回に分けて、e-モニターアンケートでも健康都市の推進に関するアンケートを実施しております。

【藤澤座長】

その結果も4,500人の中に含まれているのですね。

【事務局】

はい。

【藤澤座長】

市民の意見を集約するということでは、色々な手立てがすでに出来上がっているところを使ってどんどん集めるというところは良いかなと思います。

【山本委員】

基本的なことかもしれませんが市民の意見というところ、先ほどの DX 事業報告のところで、1 番の「災害に強いまちづくり、さらに強化する」というところが大きな目標としてあげられているんです。それで非常に去年は台風があり、今は現在コロナがきています。今現在に起こっている健康問題のニーズそれとこのアンケートがちょっとかけ離れている気がするんです。例えば去年の台風の時、私のところは避難所になったんです。ところが避難所には行けないうらい雨が道路に降ったんです。そういういろんな問題点、市内の e-モニターの方たちが感じられたものを吸い上げることも必要なのではないかな。アンケート的に加入している健康保険を答えられるんですが、それで何が得られるのか。アンケートをするって、それで知りたいこと、問題を見つけることのためにアンケートをとるので、それで例えば水害のこととか感染症の不安感とか改善点とかこうしたいっていうアンケートになれば、せっかく 8,000 人もいる e-モニターの声が市に届くと思えば、少し変わってくるのではないかなと思うんですね。問題点、今起こっている現実の問題点とそこがかけ離れていないかな、と思うんですね。で、DX にせっかく「災害に強いまちづくり」とあげているので、その辺はどのようにお考えなのかなと思います。

【事務局】

大変貴重なご意見をありがとうございます。今みなさんに市政についてであるとか、健康都市の推進といった大きなテーマで質問をさせていただいて、意見を集めているところなんですけれども、今後 DX というところで ICT 技術の進歩が進んでいった先に、委員に今ご指摘いただいたリアルタイムで何が望まれているかを把握してすぐに反映できるような状態を目指しているところではあります。アンケート等で市民のみなさまからのご意見をいただけるような問いかけ方についても、今後もこの協議会で委員のみなさまから良いアイデアがあればいただきたいなと考えております。

【藤澤座長】

e-モニターのアンケートについては、平成 28 年度から同じ調査を健康についてはずっとやっていることを今年も実施したということで、市政の方の健康都市の推進に関して何か困っていることはないかというのは別のアンケートで 10 代から 70、80 代まで幅広いところの対象者に対して、e-モニターの人たちも含めてとった結果がこの DX 事業

というふうなことなのだと思います。ですので、効果的に様々な意見をとって、その意見がどういうことなのか分析を今後していきたいというのが市の意向なのだと思います。よろしいでしょうか。

(異議なし)

それでは、時間も過ぎていきますので、次の議事にうつりたいと思います。

市川市健康増進計画 健康いちかわ 21 (第 2 次) 健康に関するアンケートについて、事務局よりご説明をお願いいたします。

【事務局】

市川市健康増進計画 健康いちかわ 21 (第 2 次) 市民の健康に関するアンケートについてご説明いたします。

まずはじめにこの計画について簡単に説明いたします。

健康いちかわ 21 (第 2 次) は平成 28 年に、こどもから高齢者まで、全ての市民がお互いに支えあいながら、希望や生きがいをもって、健やかで心豊かに生活できるまちの実現を目指し策定しました。

本計画は、生活習慣の改善による疾病の予防に重点をおくとともに、市民の生活の質 (QOL) の向上を目的とする、市民の健康づくりへの取組みの行動計画として位置づけられており、基本理念である「誰もが健康なまちの実現」を実現していくため、「健康寿命の延伸」と「健康格差の縮小」を基本目標としています。

計画の期間についてです。国の基本方針である「健康日本 21 (第 2 次)」ならびに上位計画である「健康ちば 21 (第 2 次)」は、平成 25 年度から令和 4 年度までの 10 年間で計画期間としています。

市川市の「健康いちかわ 21 (第 2 次)」は、平成 28 年度から令和 7 年度までの 10 年間で計画期間としており、中間年となる令和 2 年度に市民の健康状態や健康意識についての郵送アンケート調査などを行い、必要に応じて計画内容の見直しを図ります。中間評価の目的についてです。今回の中間評価は、基本目標である「健康寿命の延伸」「健康格差の縮小」の達成に向け、施策の方向性における各指標の達成状況を評価し、最終年に向けて市が推進すべき取り組みを明らかにするために実施するものです。

今年度の健康いちかわ 21 庁内プロジェクト会議では、市民アンケートについての検討を重点的に行いました。今回委員のみなさまにお配りしたものがアンケート案です。本日の会議ではこのあと、このアンケート項目を協議していただき、その結果を 3 月実施予定の第 4 回庁内プロジェクト会議に持ち帰り、アンケート項目を最終検討していく予定です。

次年度の健康いちかわ 21 (第 2 次) 中間評価実施スケジュールについてです。年度当初は、各種準備・調整を中心に行い、アンケートは 9 月に実施の予定です。その後担当室内で集計と分析作業を行い、次年度 12 月頃よりアンケート結果の検討作業に入り、

年度内に中間評価結果報告予定です。健康都市推進協議会の委員のみなさまには、次年度の今頃中間評価の報告をさせていただきたいと考えます。

アンケートの調査対象数についてです。上下5%の誤差範囲で調査する際に必要なサンプル数が400人であるためスライドのような調査対象数としました。幼児から高校生までは学校等所属先を経由しての配布と回収、成人は全て郵送で実施します。また、幼児・小学生は保護者の回答、中学生以上は本人の回答です。

今回のアンケートについてですが、中間評価は健康いちかわ21（第2次）計画策定時の値（平成27年度値）と比較するため、アンケート項目は原則計画策定時と同じものとしていきますが、社会情勢の変化などにより、設問の表現が適当でないものがあれば見直しを行います。例えば、性別回答の項目については、男性・女性の2択から、「どちらでもない」「答えない」を追加した4択としています。また、今年度厚生労働省が策定した健康寿命延伸プランを参考に、中間評価での実態調査として、フレイルの認知度を追加しています。今回配布した資料のアンケート3種類の各項目数は、成人が50項目、中高生が26項目、幼児・小学生が20項目となっています。

健康都市推進協議会のみなさまに本日協議していただきたいことは、次の2点です。お配りした3種類のアンケートについて、アンケート項目についての疑問点がないか。主に表現方法に理解しにくいものがないかご意見をいただきたいです。また、新たに追加した方が良い項目がありましたらご提案いただきたいです。

事務局からの説明は以上です。

【藤澤座長】

もともと健康日本21という国の基本の計画があって、健康ちば21ができ、それらを踏まえて市民のことを考えつつ健康いちかわ21ができていて、平成28年から事業を展開され、目標は決まっているというところで中間でどのくらい目標が達成されたかなというところをきくアンケートというところですけども、このアンケートの内容について、あるいはみなさまの団体として何ができるか、ご意見がありましたら順番にここからは伺っていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。それでは石井先生から。

【石井委員】

自分の得意分野から話していきますが、歯や口の健康について、実際にはフレイルの問題がもっと以前に出てきているのですが、我々からとっているオーラルフレイル、フレイルの前段階、サルコペニアとフレイルの間にあるのがオーラルフレイルであると考えておりますが、そこでの項目の「食事の時に口唇を閉じているか」とかはあったかと思いますが、問21の「よく噛んで食べる」「唇をしっかりと閉じている」というところですが、実際にそういうところを見ていくと、口腔乾燥とか舌の動きとかが我々気にしているところですが、残念ながらそういうところが見えてこない部分だったり、後ろの方の歯と口に関しても、食事に関しても出てきていないので、そのあたりが追加できると良いのではないかと感じました。

【寺澤委員】

私の方からは特に問題はないとは思いますが、設問の男性、女性、どちらでもないについては、男性ではなく女性になりたい、あるいはその反対の方にとっても「どちらでもない」という答え方は失礼になるのではないかと思います。ここの表現を考えて頂きたいなと思いました。

【坂本委員】

私からは、健康状態について「最高に良い」というふうに答える人は非常に幸せな人だとは思いますが、これは他に答えられない人は不全感を感じてしまうのではないかなと思う項目ではないかなと懸念いたしました。そして食事のところでは、「中食」ということ、「外食」ということをとおして健康づくりが必要ではないかと考えるということも保健所は行ったので、外食機会とかそういうのも聞くことが必要ではないかと追加項目として考えました。そして問 25 でいうと、「あなたは1か月に心理的な問題で悩まされましたか」とありますが、これは程度より頻度を聞いた方が良いことなのかな、と。「いつも感じている」「ときどき感じている」そんな風にした方が、非常に悩まされたというレベルで聞くと評価しにくいところがあるのではないかと考えました。私からは以上です。

【栗岡委員】

個人に出した場合、これだけ細かく見てくれるのかなと思います。内容的にはこれだけのものが必要だと思いますが、いかに皆さんが協力してくれるのかというところが問題だと思います。以上です。

【山本委員】

幼児や小学校の健康の方には「何時に起きて何時に寝た」ということが書いてあるんですね。ところが、中高生の一番寝ていない年代は漠然と「睡眠はとっているか」という表現になっていて、それで良いのかなと思いました。あと、小魚や乳製品、骨・カルシウムを聞いているんですけども、今は運動とたんぱく質という問題もあるので、その質問だけでいいのかなと。昔はカルシウムをとってというのは言っていましたが、今はたんぱく質をしっかりとって運動もするというのが分かってきているので、そういう問題はいいのかなと思いました。

中高生の性感染症ですけども、内容的に性交、梅毒、子宮頸がんなど本当は学校でも習ったりというところがありますが、実際中学1年生で第2次性徴、中学3年生位で病気の予防についても触れますが、実際触れている学校がどの程度あるのかな、と思うのでこの質問にどこまでこたえられるかな、と思いました。

【後藤真弓委員】

高校生の娘がいるので実際にアンケートに答えてもらったのですが、中高生の設問7番「かかりつけ医がありますか」という質問に、本人は「もっていない」と回答していましたが、私はいつも同じところに連れて行っているのに本人はその自覚がないのかなというのを感じました。そこは親と子の認識の違いなのですけども。あと、性感染症については両方1番に〇がついていたので、それくらいの知識なのかなというのはいました。以上です。

【清水委員】

最初の表の方に、調査をお願いするのは〇〇名と記載していますが、これは具体的にはプリント枚数は決まっているのでしょうか。

【事務局】

現時点での予定数はスライドのとおりでございますが、実際の配布時は学校の生徒数が具体的に入る予定です。

【清水委員】

先ほど e-モニターの数 が 8,000 人でしたね。このアンケートは郵便で行うと。どちらが時代に合うのかなと思いました。後は国民健康保険で医療費がどのくらいかかって、どこにどのくらいの割合で使われているのか分析して数字で追った方がいいと思います。アンケートってこの量を書くのが大変だと思うんです。そして、果たしてちゃんと書けるかどうか疑問に思います。「あなたは健康ですか」「健康に自信がありますか/ありませんか」くらい聞くと、49万人のうち半分くらい答えてくれそうな気がします。調査ってこんな風に色々な、国からくるもの細かくて。

私の会社などでも手伝ってますけど、仕事にならなくなるので「もう送らないでくれ」と途中で断りました。調査はいいんですけども、正確なデータをとるためにはもう少し考えた方がいいかと。内容量が多すぎるように感じます。以上でございます。

【高橋委員】

健康は、自分でもそれを謳い文句にして頑張っていましたけども、最近加齢とともに病気がついてきているんですけどもね。10代20代のアンケートの回答者が非常に少ない、それと高齢者も少ない。そういった問題をもっと平均化して取らないとまずいかなという感じがします。

それと、例えば一般的に平均的に(アンケートを)まいて集計した方法なんですけど、私も最近病院にかかるので病人がどういう気持ちでかかるのかなと思います。そしてこの健康に関して非常に関心を持っている。また体育館に行ってアンケートをとれば、そんな健康に対しては心配してないよ、と自分は健康だよということしてくる人がかなりいるんじゃないかと思っています。体育館なんかかなり込み合っていますので、そういう人

たちの回答がどういう方向なのか、たぶん良い数字がくるんじゃないかと。でも病院で待たされている間に、ちょっとアンケート協力してもらえませんか、ということを知ると、関心はあるけど苦労している、という情報がくるんじゃないかなとそんな感じがしました。私は普段の活動でかなりあちこちやっているんですけども、手帳を見て「これだけ出席している」となると、「これが自分の健康のバロメーターなんだな」と、後になって感じています。何年か前に振り返っても、これの時は用事があったというのがすぐに分かって病気もほとんどしませんでした。今はインフルエンザも加齢による眼科も歯も病院にかかっています。アンケートをとるのなら色々なところに幅広くやった方がいいんじゃないかなと思います。すると数字が変わってくるんじゃないかなという気がいたします。ありがとうございます。

【後藤久子委員】

事前に送られたアンケートを見ましたが、私自身運動はかなり不足していますし、栄養的には野菜が少ないなとか、色々思いました。そして、幼児小学生は子どもたちの親が回答するから良いのかと思いますが、中高生の性別で1、2、3、4とあるのが不思議だなと思いました。それとその性感染症で、本当にこういうことが中高生が正しい知識というのは変ですけども、ちゃんと勉強を教えてもらっているんですか、と聞きたいくらいですね。何となくお友達同士とかマスコミ関係とかから知識を得ているとちょっと不安です。民生委員として子どもたちと接すると本当に15歳くらいで妊娠してしまうというのがあって、その次のことにも色々関わってくるのでやはりちゃんと自分の身じゃないですけど。この項目は悪くはないのかもしれませんが、その前の段階でしっかりと知識は分かっているほしいな、と思います。以上です。

【滝沢委員】

自治会連合会です。問1の性別の「どちらでもない」はいかがなものかと思います。子どものアンケートでは「男女」だが、中高生以上は成人と同じような設問になっていますよね。残すのであれば「答えない」だけで良いのではないかと思います。それと我々地域活動をしておりますと、ちょっと気になることがあります。問26から30まで「はい/いいえ」の回答です。これは「いいえ」の方にもう少し細かく、今後ボランティア活動をする意思があるかどうかをどうせ調査するのなら聞いてみてはどうかと思います。問30は選択肢が5までありますからね。そこまで細かくしなくても問28、29はそうしたことをお願いできればなと思っております。以上でございます。

【青山委員】

事前にいただいたアンケートを見てメールで質問したものを再度質問いたします。成人アンケート問49、50の設問について、回答が3つに制限されていることについて質問いたします。特に問49は働き盛りや子育て世代のお母さんについては沢山の思いや意見があると思いますし、時間に余裕がある世代とでは、丸の数も違ってくるのではな

いかと。他の設問は定量的な設問ですから、だいたい自分はどの程度かというのは答えられるんですけども、あえて3つにするという必要性はあるのかな、ということを質問させていただきます。以上です。

【藤澤座長】

色々ご意見が出ました。市の方でもそれを検討していくということになると思いますが、健康日本21（第2次）の中間の評価ですのでベースラインの最初と比較して、比較できなければいけないので、追加することはあっても「ここがこのように変化しました/良くなりました」という結果を出したいための中間評価、あるいは「今後どうしたらよいか」というのが中間評価なので、なくすというのは基本的にはできないという風なことです。ですので設問の聞き方だったり、性別のことだったり検討していただければと思いますが、内容そのものについてはすでに目標を設定しているので、その達成率そういう意味ではアンケートがありすぎるのかもしれませんが。この中間評価のアンケート、それからe-モニターで同じように市民の健康に関するアンケート、健康都市推進に関するアンケートその他も色々な部署で、色々なアンケートをとって何かに使おうと思っておられるのかもしれないので。その辺の目的と結果と評価とそういう風なところが、いつもどういう風になりましたというご報告があって、どう改善しましたというご報告があって、そういうところに結びついていくのだと思いますが、このように集まられた方々は聞くチャンスがありますが、それが一般の市民の方々にどう伝えられるのかということも考える必要があるのかなと思いました。このアンケート用紙の内容については市の方でもう一度検討、今のご意見を参考にさせていただくというところによろしいかと思うのですが、何か市の方からご回答よろしいですか。

【山本委員】

小学校や中学校は、市川市は健やか健診を行っております。それで似たようなアンケートがいくつも同じようなものがあるんです。せっかくアンケートをとっていて、市全体でとっているスポーツテストなど。それが全然、こういう場ではまた同じようなアンケートをとるとというのがすごくお金ももったいないと思います。違う部署ですけども、アンケートが共有されるとデータも集計されていますから良いのではないかと思います。

【藤澤座長】

そうですね。この中間評価はもうやらなければならない仕事なんですね。その他の健康関連施策については、庁内プロジェクトチームが効果的にやろうと検討しています。市ではそういう組織を作っているのので、その検討内容を現場の方にまで流していただくあるいはどうする、というのがあるとよろしいかと思います。

【山本委員】

学校へのアンケートが多すぎます。アンケートにかかわる労力が先生方も大変ですから。同じような内容になってしまっていますから。そういうことも考慮していただけたらと思います。

【藤澤座長】

それこそビッグデータの活用ですね。こういうデータが欲しいというときに市に行けば出てくるといい。市で連携して、こういう状況の時のデータが欲しいと思ったときに市全体でのものがすぐもらえたら、調査しなくてもよいような仕組みを作っていただけたらと思います。今色々ご意見いただきましたので、それに対して市からお願いします。

【事務局】

はい。みなさま貴重なご意見をありがとうございます。全ての事項への回答は難しいため、質問に対して回答いたします。今回の設問数ですが、評価に直結する質問と、実態調査として行う質問の2種類がありますので、評価に直結するものについては変更が難しい箇所ではあるのですが、実態調査の部分につきましては、先ほど山本委員からご指摘いただきましたように他のアンケートをもって替えられるものがないかというのを、庁内プロジェクト会議で検討していきたいと思います。青山委員からいただきましたアンケートの回答数については、回答の種類として、単一のものと複数回答のものに分かれております。複数回答のものは「いくつでも」という形の無制限のものと、ご指摘いただいた3つまでという制限をしているものに分かれています。「いくつでも」というものに関しては、こちらとしてはできれば全て選んでほしい場合、知識として知っておいていただきたいものなどを設定しています。一方今回3つまでと制限したものについては、場合によっては全ての選択肢が選ばれる可能性がある質問、でも中でも特に意識しているものを伺いたいたため、3つという制限をつけています。以上が回答となりますがよろしいでしょうか。

【寺澤委員】

幼稚園・小中高校と分かれておりますが、成人はひとくくりでやっているといつまでたっても、何歳くらいの人はどう思っているとか80歳代の人と20歳代の人で思っていることは全然違うと思っているんですね。で、もし色々なデータを蓄積して市川市で出していくのだとしたら、最初から20代何人とか、もう少し成人を細かく分けた方が設問にあった答えが得られるのでは。何十代が病気になるんだとか、問題を持っているのだろうかとか。成人も細かく聞いても良いのではないかと思います。

【事務局】

回答いたします。今回の説明では成人をひとくくりにしておりますが、実際の手法としましては、住民基本台帳から無作為抽出で各年代をとってという形になりますので、

なるべく人口構成に沿った形での配布、ただ配布した後の回答は年代によって差が出る
とは思いますが、それでもなるべく有効回答数に近づく、意味のある回答数にな
る形でと考えております。実際どのような形で行ったかについては、改めて来年度にな
りますがご報告させていただきたいと思っております。以上です。

【藤澤座長】

ありがとうございます。いろいろなご意見をいただきましたけれども時間も迫ってま
いりましたので議事の方は終了いたします。

それでは事務局より説明をお願いいたします。

【健康都市担当室長】

藤澤委員におかれましては、座長をお務めいただきありがとうございました。最後に、
事務局より事務連絡をいたします。

【事務局】

皆様、貴重なご意見をありがとうございました。

今回いただいた様々なご意見は、庁内プロジェクト会議にフィードバックし、次年度
の健康いちかわ21（第2次）中間評価を進めて参りたいと思っております。

続いて事務連絡でございます。4月11日（土）と12日（日）に開催されます、第14
回下総・江戸川ツーデーマーチについて、主催者の下総・江戸川ツーデーマーチ実行委
員会から後援についての申請がありましたので例年通り事務局で受付をさせていただきました。
本日配布資料としてチラシを用意させていただきました。ぜひ沢山の方がご
参加いただきますよう、ご協力をお願いします。

また、市川市医師会で作成されました小冊子「正しく知ろう受動喫煙の害と対策」につ
いては、今年度の市川市市民の集いにて配布されましたものをご提供いただきました
ので、本協議会のみなさまに受動喫煙に関する参考資料として配布いたします。

そして毎年千葉県で実施している冬の受動喫煙喫煙防止キャンペーン啓発品のカイ
ロです。担当室では市民対象のイベントの際に配布をしております。本日は啓発品見
本に配布いたします。よろしければご活用ください。

次に、健康都市いちかわ 健康講話&ダンスコンテストのチラシをご覧ください。今
月16日に行徳文化ホール I&I 会場で市川市主催の健康都市いちかわイベントがあり
ます。市職員による健康講話や健康チェックと相談のコーナー、そしてダンスコンテ
ストと見ごたえ聞きごたえのあるイベントとなっています。担当室は健康都市いちかわ
のPRと来場者に健康都市アンケートを行います。みなさまのご都合がよろしければ
ぜひお越しください。最後に本日欠席されている保健推進協議会加藤委員よりご案内が
ありましたので報告させていただきます。保健推進協議会ではなく加藤委員が個人的に参
加し取得されたものということです。精神障がい者、身体障がい者の生活支援に向けた
講習のテキストというものがホームページからダウンロードができるということで、ご

興味のある方はこのチラシをお持ち帰りください、ということです。
事務連絡は以上になります。

【健康都市担当室長】

以上をもちまして、本日の予定は終了いたしましたので「令和元年度第2回市川市健康都市推進協議会」はこれもちまして終了いたします。

本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございました。